

教材研究・指導案作成班の取り組み

○班構成

02(3年生):3名、03(2年生):2名、04(1年生):3名 計8名

○班結成の目的

教科書掲載の教材について、現代文、古文、漢文問わず教材研究を行い、実際の授業を想定して指導案を作成する活動を通して、教育実習や教員になった際に役立つ知識や経験を積む。

○活動の流れ

9月下旬 対象の教材決め

→02が教育実習で担当した教材3種類(ミロのヴィーナス(現代の国語)、広告の形而上学(現代の国語)、東下り(言語文化))を対象とすることに決定。
なお教材は全て高校一年生対象。

10月上旬 グループ分け

→教材ごとにメンバーを分け、グループを作成。なお、02は教育実習で担当した教材のグループに所属した。

○ミロのヴィーナス 02:1名 03:1名 04:1名

○広告の形而上学 02:1名 03:1名 04:1名

○東下り(伊勢物語) 02:1名 04:1名

10月から11月中旬

グループごとに活動

→グループごとに日程調節を行い、対面・オンラインでの活動を始動。具体的な活動としては、02が03、04に向けて、指導案の基本的な構成や書き方、教材研究のやり方を説明をしたり、03、04が作成した指導案に対して、教育実習での経験をもとにアドバイスした。

活動風景📷



11月末 班内での報告会

→各グループのメンバーが集まって、報告会を行った。主な報告内容は、指導案を作成した03、04は作成した指導案の概要と、作成して感じたこと、特に難しかったことを報告し、それに対して同グループの02がコメントをした。その後、指導案についての質疑応答を全員で行った。報告会の議事録はteamsにアップし、教国自由研究に参加した他の班のメンバーにも報告会の内容がわかるようにした。

○活動を終えてみて

数十年前から開催されていた問題別分科会が、コロナの影響で2年間休止となっていた状態から新たに立ち上げた教国自由研究、私自身運営委員として立ち上げから参加していた身として、初めはどうなるのかと心配していたので、無事終わることができてほっとしている。問題別分科会を行う意義とされていた、「学年を超えた繋がりをもつ機会をつくる」を引き続き教国自由研究を行う意義としたのだが、それに関しては、未だコロナ禍ということもあり、コロナ禍以前のように対面での活動を思ったように多く重ねることは実現できなかった。しかし、02が教育実習で実際に体験して感じたことや学んだことを、03、04に伝えることは大いにできた。また、特に04はまだ一度も指導案を作成したことがなかった状態で、時間をかけて教材分析し、指導案を作成するという経験ができたことは今後の学びにもつながる活動だったのではないかと思う。また、02もコロナ禍真っ只中で大学生となり、教国の行事にほとんど参加できていなかったため、学年を超えて関わりを持てる行事を体験できて、楽しくもあり、これからも積極的に縦のつながりを大切にしていきたいと思うことができた。